

学校名：海老名市立海老名小学校

担当：4 学年

氏名：徳山 敬倫

1. 今回の研修における目的やねらい

カンボジアには、過去に一度行ったことがあった。その時にカンボジアという国の歴史や文化、そしてカンボジアの人々に興味をもった。しかし、カンボジアの歴史や文化を知らずにカンボジアに観光で行ったので深くカンボジアについて知ることができなかった。

そこで今回は研修に参加することによって、カンボジアについての理解を深めたいと考えた。特にカンボジアにおける生活や教育環境などを知ることによって、教師である自分が授業を通して日本の子ども達に日本の良さについて考えられるような機会を作りたいと考えている。

2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

今回の研修に参加して、自分がカンボジアに対して正しく理解をしていないということを強く感じた。カンボジアは援助をされている発展途上の国である。生活様式は現代の日本と比べてもまったく異なっていた。特に地方の人々の生活は電気などの設備もなく日本と比べると不便な生活をしていた。しかし、一方では都市部を中心として水道や電気などの生活基盤がかなり整えられていることにはかなり驚いた。また、教育の環境もまだまだ不十分な部分もあるが、教育行政が学校教育を日本と同じぐらいのレベルで行おうとしていることも自分が全く知らないことであった。

このように自分が考えている以上に発展している部分を知ることができたことは、自分にとってカンボジアについて深く理解することができて大きな収穫だった。また、たくさんの国から様々な援助を受けていることやそれによってカンボジアの人々の考え方や生活環境が改善されているということを実際に見たり聞いたりすることができたことは、今回の研修の目的であるカンボジアについての理解を深めるということを十分に達成することができるものだった。

3. カンボジア国から学んだこと

カンボジアという国について知ることによって、カンボジアについてたくさんのことを学んだ。特に IKIT でのカンボジアの人々の生活を知り、日本でも昔はこのような生活がされていたということを体感することができた。電気が自由に使えなかったり、かまどを使って料理をしたりするなど現在の日本の生活から考えると不便に感じられることもあった。しかし、夫婦で晩御飯の支度をしたり、子どもが火を操りながらご飯を炊いたり、弟や妹の面倒を見たりする姿などは家族の強いつながりを感じた。

これは現代の日本では失われつつあることで、最近は特に見直されていることだと思う。カンボジアの人々の生活を知ることによって、改めて日本人が失ってしまい、大切にしていかなければいけないことを再発見できた。カンボジアという国を学ぶことによって、日本が逆に見習わなければいけに事を学ぶことができた。

4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

今回の研修ではカンボジアの人々の生活や学校の様子など児童に対して身近なことを知ることができた。この体験をまずは自分の職場の先生たちに伝えていきたいと考えている。そして、発展途上国についての興味をもってもらったり、開発教育に対して理解してもらったりしたいと思う。

また、授業でカンボジアのことを子どもたちに伝えることによって、自分たちにできることはないかを考

えられるようにしたいと思う。そして、日本で暮らす自分たちの生活に感謝できるような授業をしたいと思う。

5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

今回の研修では、観光では知ることのできないカンボジアの人々の生活や文化を知ることができた。また、ガイドさんと JICA カンボジアの日本人スタッフの方の二人からの話を聞くことができ、多面的に物事を知ることができたのは大変良かった。

また、参加者同士で研修期間に見たり感じたりしたことを話し合う機会を設けてもらい、さまざまな感じ方や考え方を知ることができた。自分が気づけなかったことや見落としていることなど新たな発見があり、とてもよかった。

6. その他、研修全般を通じての感想・意見など

今回の研修では、研修内容が様々でカンボジアについて偏ることなく、いろいろなことを知ることができたのは良かった。また、日程もゆとりがあり、一つひとつの研修についてじっくりと取り組むことができた。また、時間にゆとりがあったので自分が今回の研修で調べたいと考えていたことにも、しっかりと取り組むことができた。

細やかなところまで考えられた日程を調整して当日までの準備をしていただいた JICA スタッフの方々の細やかな対応に感謝します。

7. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

今回の研修で感じたことはどのようなことを自分が知りたいのか、調べたいのかということをはっきりとさせて研修に参加することが大切だと感じた。そうすることによって研修が充実したものになると強く感じた。そして、そのような機会は意外なところであるので移動中は常に記録できるように準備しておくとういと思う。

また、自分から積極的にコミュニケーションをとることや聞きたいことは思い切って聞くということが大切だと思う。一度機会を逃すと後悔するので迷った時はやってみたほうがよいと感じた。

8. 各訪問先等の所感

日時	テーマ	所感
7月26日(火)	日本からカンボジアまでの移動中および現地到着	プノンペンに初めてだったが、高層ビルなどもあり意外と都会だと感じた。海外の企業も多く、ガソリンスタンドや車が多いことも非常に驚いた。
7月27日(水)	JICA カンボジア事務所表敬	カンボジアの状況について自分が思い込みすぎている部分があったことに気付いた。特に水道環境はとてよよく、都市部ではかなり整備されていることに驚いた。しかし、家庭の水道設備が不十分なために安全な水を使えないということは、まだまだ改善していかなければいけないと感じた。
7月27日(水)	市内見学（現地マーケット視察）	セントラルマーケットでは現地の人々の生活が見えてきた。たくさんの生活用品や食べ物は日本と違い見るのがとても楽しかった。現地の食べ物も食べることができ

		て、カンボジアの人々の生活を体感することができた。
7月27日(水)	JICA 無償資金援助で建設された施設	建設された施設は大変立派なもので、利用している人も多く、現地の人々にとってとても有効に使われていることを感じた。また、船上から川沿いの人々の生活を見ることができて、市街地とは違う環境で生活をしている様子が感じられた。
7月27日(水)	本日の振り返り	プノンペン様子を見たが、町の中心と町のはずれの様子の違いで生活環境が違うなと感じた。特に川沿いの家は粗末な建物で生活している人を見ることができ、どのように生活しているのか知りたいと感じた。
7月28日(木)	カンボジア日本人材開発センター	学生の日本語能力の高さに驚いた。特に日本語に興味をもつようになったきっかけを知り、日本人の思想などに対する興味が高いことに驚いた。学生が知りたいと思っていることについても、答えることができよい交流になったと思う。
7月28日(木)	本日の振り返り	カンボジア人から見た日本人の印象を聞いて、日本人である自分では気づかないことを知ることができた。日本に対する興味だけでなく、日本人の仕事に対する姿勢などにも興味をもっていることには驚いた。また、日本の教師の教え方についても質問があり、日本から学びたいという強い思いを感じられた。
7月29日(金)	国際保健協力市民の会 (SHARE)	SHARE の援助の考え方にはなるほどなと思った。自分たちがいなくなっても活動が続くようにしたいという考え方は、援助の難しさを感じた。
7月29日(金)	本日の振り返り	都市から遠く離れた村の生活は、都市とは全く違っていた。しかし、そのようなところにも学校がちゃんとあり、子どもたちも学校に通っていると聞いて教育が手厚く行われていることを感じた。
7月30日(土)	アンコールワット	遺跡の壮大さに感動した。このような遺跡を作った文明があったカンボジアの歴史の深さを感じた。遺跡についての説明も詳しくしてもらい勉強になった。
7月30日(土)	クメール伝統織物研究所 (IKTT)	村での生活の仕方、森本さんの考え方など今の日本ではなくなっているものが残っていると感じた。家の中の様子を嫌な顔をしないで見せてくれた村の人々の優しさも感じられた。
7月30日(土)	本日の振り返り	アンコールワットの遺跡はやはり感動した。GJCC の学生もカンボジアの誇りと言っていたのもわかった。IKTT に行くまでの道路状況は大変悪く、まだまだ環境が整えられていないところも多いなと実感した。
7月31日(日)	クメール伝統織物研究所 (IKTT)	IKTT の子どもたちと交流することができた。話を聞いていると、日本の子どもたちともあまり変わらなかったのも子どもはどこも変わらないなと感じた。人懐っこい

		カンボジアの子どもたちとの交流はいい思い出になった。
7月31日(日)	アンコールワット	遺跡に木の根が絡んでいるのを見て、歴史の長さを感じた。しかし、かなり傷んでいるところがあり、遺跡を修復して残していくことが大切だと感じた。
7月31日(日)	本日の振り返り	IKTT では村の方々が気持ちよく送り出してくれたことがうれしかった。村の生活の仕方は最近日本でも注目されているスローライフと同じだった。自分たちの手で生活をしている人々の暮らし方は魅力的なものだった。
8月1日(月)	カンボジア地雷対策センター博物館	カンボジアの歴史の暗い部分を見ることができた。実際に地雷や爆弾を見たり、被害にあった人たちの写真を見たりして改めて地雷の恐怖を感じた。しかし、除去作業もかなり進んでいるということに平和への道をしっかりと進んでいると感じた。
8月1日(月)	海外ボランティア視察 (伊藤 SV, 徳富 JV)	シェムリアップの教育環境を詳しく説明してもらい、たくさんのことを学ぶことができた。入学率の高さや進級率の低さをしり驚いた。しかし、さまざまな活動を通して少しずつ改善されているのはすごいなと感じた。そこまで変えていく努力はかなりのものだったと思う。
8月1日(月)	母親教室 (就学前教育)	歯磨きの仕方を教えているのを見て、日本とは教育環境がかなり違うと感じた。また、使ったプラスチックのゴミを草むらに捨てている子どももいたので、就学前の教育はまだまだ必要なんだと感じた。
8月1日(月)	夜間の識字教室	蛍光灯一本だけの暗い場所で一生懸命に勉強している姿に教育を受けたいと強く思っている人々の気持ちを感じた。高齢の方も必死に勉強する姿をみて、教育を受けられことの大切さを感じた。
8月1日(月)	本日の振り返り	シェムリアップの教育意識の高さに驚いた。特に校長先生の学校方針が日本とかなり似ていることにもとても驚いた。教育の目指している高さは教育の大切さをカンボジアの人々も強く感じているのだと思う。
8月2日(火)	ワット・ポー小学校	ワット・ポー小学校では素晴らしい歓迎を受けた。楽器などが十分ではない中であれだけの力を子どもたちに身に付けさせるというのはすごいと感じた。また、子どもたちの能力の高さもすごいものをもっていると思った。やはり子どもたちには一人ひとりの力を引き出せるような教育が必要だと強く感じた。
8月2日(火)	コン・ボーン氏の講演	実際にポル・ポト時代を生き抜いた人の話を聞くことができたのは、とてもよい経験だった。また、コン・ボーン氏の教育に対する考え方やカンボジアの歴史についての考えを聞くことができたのはとても良い刺激になった。

8月2日(火)	本日の振り返り	実際に小学校の活動を見たり、活動している方の話を聞いたりすることができたのはとてもよかった。現場での苦労などの話も聞くことができ、援助活動の大変さを感じた。日本の恵まれた環境で教育を受けている子どもとの違いを強く感じた。
8月3日(水)	現地マーケット視察 (ロシアンマーケット)	朝の市場の様子を見ることができておもしろかった。人々の日常生活の様子がよく見られたのもよかった。商売をしながら食事をする姿は日本ではなかなか見ることができないもので面白かった。
8月3日(水)	トゥールスレン虐殺博物館	カンボジアの暗い過去を実際に自分の目で見る事ができたのはすごく印象に残った。実際に虐殺された人々の写真やポル・ポト派の兵士の写真などは本当に生々しく戦争の悲惨さを強く感じ、今でもカンボジアの発展に影響を与えている原因の一つだと思った。
8月3日(水)	JICA カンボジア事務所 研修報告会	自分がこの研修で感じたことを話しながら、本当に充実した研修だったと感じた。他の参加者の方の話を聞きながら、自分の感じていることと違う人もいて同じ研修でも人によって感じ方が違うのは面白いと感じた。
8月3日(水)	本日の振り返り	本当にたくさんのことを考えさせられる研修だった。学んだことがとても多く、自分の中でも少し時間をかけて整理をしないといけないと感じた。この研修で学んだことを日本に帰ってしっかりと子どもや同僚の先生に伝えたいと思った。
8月4日(木)	カンボジアから日本までの 移動中および日本到着	日本に帰国してからの授業について考えながら過ごした。得ることができた情報があまりにも多く、どの情報を子どもに伝えるのか悩んでしまった。もう一度授業計画を練り直しながら、より良い授業にしたいと感じた。